

全公連ワークショップ「子どもの健康リスクを考える」

3班『若年者の性行動と妊娠に伴う健康問題』のまとめ

2014.9.2

メンバー：伊藤和憲（全日本鍼灸学会）、岡田賢司（日本ワクチン学会）、喜多村祐里（日本衛生学会）、鈴木幸子（日本母性衛生学会）、遠山千春（日本衛生学会）

1. 課題設定

子どもの健康を蝕む要因は多岐にわたる。環境要因として、薬物・アルコール・食品添加物・タバコ（受動喫煙）を含む化学（有害）物質曝露・マスメディアによる情報の氾濫・子どもの貧困といったものが挙げられ、生活習慣（ライフスタイル）要因として、不活動（運動不足）・睡眠時間の短縮（夜型）・食生活変化（ファストフード指向）・ストレス対策、セルフケア行動、性行動などが考えられた。影響の種類では、自閉症スペクトラムやADHD（注意欠陥性多動性障害）を含む広汎性発達障害・感染症・メタボリックシンドローム・情動障害（気分障害・うつ）など多岐にわたる。全体として、これらの問題に関する適切な健康観が子どもたちに学習を通して十分に形成されていない。

そこで、これらの中から3班では、「若年者の性行動と妊娠に伴う健康問題」を取り上げた。その理由は、これらの要因のほとんど全てにおいて、学校教育のみならず、公的サポートや社会資源の活用による総合的な取り組みが必要であると想定されたからである。

そこで、「若年者の性行動と妊娠」が子どもに及ぼす健康被害を未然に防ぐためには若年妊婦の出産～育児に至る様々な段階で多くの支援（サポート）が必要と考えられるが、諸外国（とくに英国）における具体的施策なども参考にして、3班では、早すぎる性行動と妊娠を防止する策について検討した。

2. 課題解決—早すぎる性行動と妊娠の防止策

1) 性発達・妊娠そして出産の過程に関する科学的事実を教える

いつ：性行動の開始年齢から高校までの期間に継続的に

どこで：学校で

誰が：保健体育／養護教諭が（必要に応じて、校医を含む外来講師）

何を：性交・妊娠・出産のリスクとは何かについて、性感染症・妊娠中の化学物質曝露による胎児・乳児への悪影響、妊娠中の食生活など、医学・健康科学的な説明をする。

どのように：基本的知識は集団で、実践的知識は個別指導で

授業が誰でもできるようなDVD教材を開発し教師を支援

2) 早すぎる性行動と妊娠・出産の人生上のリスクを考えさせる

いつ：性交開始年齢から高校までの期間に継続的に

どこで：学校や地域で

誰が：家庭科教諭/保健体育/養護教諭（必要に応じて校医や外来の講師）

何を：学業中断・経済的困窮・育児困難の可能性ならびに人生設計上の様々な問題を考えさせる。

3) 性発達とうまく付き合うための健康教育を行う

いつ：小学校高学年から高校

どこで：学校（保健体育・道徳）、家庭

何を：自分の心や身体の些細な変化に気が付き、対応できるための知識の教育

(いわゆる健康予防を基礎としたセルフケア・セルフマネジメントなどの総合学習)

どのように：基本的知識は集団で、実践的知識は個別指導で

授業が誰でもできるような DVD 教材を開発し教師を支援

4) 若年者の性行動リスクから健康を守る方策：避妊手段への容易なアクセス

いつ：24 時間

どこで：メディアを通じて、コンビニの店頭で

何を：コンドームの必要性和行きやすい産婦人科/泌尿器科クリニックの情報提供、無料コンドーム、無料ピルなどの経済的支援を行う。

どのように：「自分や大切な人を健康被害から守るための手段」として、節度を保つことの重要性とともに、正しい使用法を分かり易く伝えるよう配慮する。

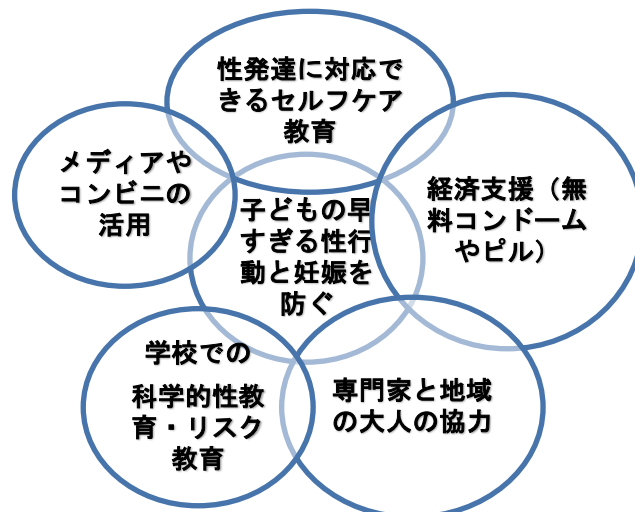


Figure 1. 総合的支援体制